



病院理念 人にやさしく 信頼される病院

基本方針

私たちは 皆様の権利や意思を尊重し、納得のいく医療を提供します。
私たちは 地域に必要な医療を提供し、健やかで豊かな地域社会の実現を目指します。
私たちは 安全で良質な医療を提供するため、日々研鑽いたします。

日本医療機能評価機構認定病院
羽咋郡市広域圏事務組合

公立羽咋病院

〒925-8502
石川県羽咋市の場町松崎24番地
TEL (0767)22-1220
FAX (0767)22-5598
<https://www.hakuihp.jp/>

夏風邪と熱中症



いよいよ夏本番ですね！私達小児科医は診療中に季節の到来を感じます。

くしゃみが連発すると、スギ花粉飛散のはじまりを感じます。溶連菌感染症が流行り始めると、春がきたことを感じます。喉の奥に白いアフタ（ヘルパンギーナ）や手足にぶつぶつが出る（手足口病）と夏が来たことを感じます。（手足口病のぶつぶつは膝とお尻にも出るので、正確には手足口膝お尻病です。）

また、熱とともに喉が赤く腫れ、目が赤くなる「プール熱」（アデノウイルス感染症）はその名の通り夏の代名詞といえます。



ヘルパンギーナ



手足口病



プール熱（アデノウイルス感染症）

前述のヘルパンギーナ、手足口病とプール熱は「夏風邪3きょうだい」です。新型コロナウイルス感染症の大流行でしばらく息を潜めていた季節性ウイルス感染が復活しています。今年は6月中旬に手足口病流行の警戒警報が発令されました。ただ、温暖化が進み、日本のウイルス流行も1年を通して流行する（通年性）形になりつつあります。これは亜熱帯地方の流行パターンであり、日本もそれに似てきています。

夏風邪には抗ウイルス薬がありません。大部分は自然治癒力で治ります。しかし、合併症を引き起こすこともありますので、1週間以上を過ぎても元気がない場合は医療機関を受診することも大切です。

夏で忘れてならないのが「熱中症」への注意です。熱中症とは高温多湿環境下で水分補給が不足すると、発汗による体温調節がうまく働かず、体内に熱がこもった状態（蓄熱）です。



熱中症予防

頭痛、めまい、唇のしびれ、筋肉のひきつり（こむらがり）などの軽症（初期）のうちに適切な対応がなされないと重症化（意識障害、高体温）することもあります。軽症のうちに涼しい場所に移して、体を冷やして、水分を与えることが大切です。

熱中症の予防には「のどが渇く前に水分と塩分補給」が重要です。体をコップに例えて、「コップの水を減らさない」とイメージしてはどうでしょうか。そして、「屋外に出る前にコップの水をいっぱいにしていく」準備も大切です。

公立羽咋病院 小児科医長 犀川 太

子どもの熱中症予防

家庭で役立つ情報

子どもは水分の必要量が多いため、大人に比べ脱水になりやすく熱中症になりやすいと言われています。発症した場合は重症化するスピードも速いことが特徴です。

!!! 注意点 !!!

- ・水分補給：喉が渇く前に飲む（具体的には20分毎に100ml～250ml）
- ・気温が高いときは外出を控える：屋内でもエアコンなど使用し適切な室温管理
- ・衣類の調節：外出時は帽子の着用、汗で濡れたら着替える、気温にあった服を選ぶ
- ・こまめに休憩：遊んでいると体調の変化に気づかないことがある。外遊びの時は汗の量や顔の赤さに注意し、15分～30分に一度は日陰や屋内の涼しいところで休憩する
- ・短時間でも子どもを車内に放置しない



子どもは自分で予防できないので周囲の大人が気をつけて予防しましょう。

外来看護師 谷 喜代美

SERIES タスクシフト

タスクシフト、シェアの取り組みとして、検査技師も昨年4月から処置室業務として採血を行っています。採血から結果報告までの全過程に関わっており、正確な結果提供を心掛けています。患者さんから「痛くなかった」という言葉をいただいた際には、喜びとやりがいを感じます。

また、この4月から新たに、救急での補助業務も開始しました。看護師や放射線技師と協力して、スピーディーな患者さんへの対応を行っています。今後も医療チームの一員として、地域医療の質の向上を目指します。検査に関することでお聞きになりたいことがありましたら、気軽に声をお掛けください。



臨床検査科 技師長 山内 和美

6月27日に健康フェアを開催しました

コロナ禍で中止していた健康フェアを5年ぶりに開催し、51名の方が参加されました。当院の認定看護師・特定研修修了看護師が、血圧・血管年齢・血糖値・骨密度・皮膚水分量などのチェックとアドバイスを行いました。また、管理栄養士が体に優しいおからクッキーの配布や栄養指導、リハビリスタッフは健康維持のためのアドバイスを行いました。

参加された方もスタッフも笑顔があふれ、元気をいただきました。今後も、地域住民の皆様が安心して医療を受けていただくために、多職種が連携していきたいと思っております。

副総看護師長兼外来看護師長 森本 ゆかり



家族介護者教室

6月28日に6年ぶりに家族介護者教室が開催されました。

当院栄養科 因幡紘奈主任管理栄養士から「高齢者の食事と栄養」、吉田管理栄養士から「栄養補助食品・市販介護食について」の講義がありました。

入院患者さんやご家族など合わせて10名が参加しました。講義後に、栄養補助食品・市販介護食の試食があり、講義内容の理解がしやすく、市販介護食の種類の豊富さや味に驚きでした。

地域包括医療推進委員会 地域包括小委員会
委員長 中村 佳代



血管造影X線診断装置更新

血管撮影装置とは、目的血管にカテーテルという細い管を入れ造影剤を注入し、X線を使用して撮影する装置です。

当院では、主に心臓血管に対し、血管が狭くなっていないか観察を行い、狭い場合は、血管を広げる治療を行っています。心臓血管以外では、シャント血管の撮影や肝臓腫瘍の塞栓術などにも利用しています。更新装置は、以前より大きく画質が向上し、低被ばくでの検査が可能であることから、今後も患者さんに負担の少ない検査・治療を提供出来るよう取り組みたいと思います。

放射線科 技師長 井戸 浄清



薬剤自動調製装置が導入されました!



この装置は抗がん剤調製ロボットと呼ばれるもので、調剤ロボットの最先端機器です。国内でも導入している病院はまだ少数で、おそらく北陸3県では当院が初です。2本の人の腕のような機械（ロボットアーム）が、バイアルの抗がん剤を溶解し、必要量を正確に抜き取って点滴に注入することができます。薬剤師が行ってきた調製をロボットが代行するメリットはいろいろありますが、最大のメリットは、ロボットが稼働している時間を薬剤師は他の業務（調剤や服薬指導など）に使用することができる、ということです。

薬剤科 薬局長 高木 亮

連携介護保険事業所 紹介

特別養護老人ホームちどり園は「その人らしいあたりまえな生活を実現しよう!」をスローガンに、地域に根ざした施設づくりに努め、昨年末に設立30年を迎えました。

住み慣れた地域で最後まで暮らすことができるよう、特別養護老人ホームの運営は基より、デイサービスやショートステイの在宅サービスの充実、また地域の介護相談に応じる居宅介護支援事業を行っています。

科学的根拠に基づいた自立支援介護を推進し、利用者それぞれの個性に着目しながら「その人らしく、やりたいことが実現できる生活の場」の提供に取り組み、生活の質の向上に繋がられるよう努めています。

公式インスタグラム@ちどっこぐらしで施設の魅力を発信中!

特別養護老人ホームちどり園 生活相談員 上本 雄一郎



特別養護老人ホーム ちどり園

住 所：羽咋郡宝達志水町宿五号10-2

電 話：0767-28-5511

事業所種別：施設サービス、居宅介護支援・通所介護・短期入所

認知症相談窓口案内

物忘れがあって心配 家族が認知症かもしれない？
介護の負担が大きくて困っているなど誰にも話せない悩みはありませんか？
話をするだけでも気持ちが軽くなるときがあります。
一人で悩みを抱えずに相談してみませんか？

認知症看護認定看護師兼外来主任看護師 四道 昭子



対 象：ご本人や家族、施設職員の方など
相 談 日：毎週木曜日 9時～15時
※原則予約制です
場 所：公立羽咋病院 1階 相談室
担 当 者：認知症看護認定看護師 四道 昭子
予約方法：病院窓口・電話・メール
病院窓口：外来処置室もしくは診療科窓口
電話番号：22-1220 (代)
メー ル：gairai@hakuihp.jp

ありがとうございます

- ♥ なぎさ表紙題字・絵手紙 辻口 敦子 様
- ♥ 写 真 羽咋写真協会の皆様
- ♥ 絵 画 羽咋美術協会の皆様
- ♥ 書 字 羽咋市書道協会の皆様
- ♥ 俳 句 宝達志水町若葦会の皆様
- ♥ 園児の絵



こすもす保育園 1歳児の園児さんより
「あじさい」

羽咋ジュニアダンス教室から メッセージパネル寄贈

令和6年5月22日、羽咋ジュニアダンス教室
のみなさんから、メッセージパネルの寄贈を受け
ました。温かいメッセージ、ありがとうございました。

